

「柔道における肩鎖関節障害の実態調査」

京都大学整形外科

山脇佑介（やまわき ゆうすけ），中川泰彰

小林雅彦，岡本幸大，西谷江平，中村孝志

天理大学体育学部

安田義

【目的】コンタクトスポーツにおける肩関節の障害はよく見られる。しかし、柔道における肩鎖関節脱臼の実態についての報告はあまりない。そこで、柔道での肩鎖関節障害の危険因子などについて調査する事を目的とした。

【対象及び方法】対象はT大学男子柔道部員45人90肩であった。調査項目は身長、体重、頸部筋力、握力及び肩関節の愁訴と理学所見であった。肩関節の既往歴を聴取し、理学所見として、肩鎖関節の変形と圧痛を調査した。それらのデータと肩鎖関節の愁訴、変形・圧痛等の間に相関関係があるかを統計学的に調べた。

【結果】身長、体重、頸部筋力、握力の平均は174.8cm, 85.8kg, 184.7N, 56.9kgであった。肩鎖関節に愁訴のある選手は7名7肩(7.8%)、変形のみられた選手は7名7肩(7.8%)、圧痛を呈したものは9名9肩(10%)にみられた。肩鎖関節症状と身体的項目との間で関連があったのは、圧痛と高身長、高体重、握力の大きさであった。

【考察】今回の調査の結果としては、身長・体重とも大柄な選手の方が有意差をもって肩鎖関節の圧痛が多かった。一般的に相撲などのコンタクトスポーツにおいては身長・体重とも小柄な選手の方が肩関節障害は多いと言われているが、柔道はより細かく体重別に分けられることから比較的体格の影響を受けづらいと思われた。又、受け身をしないで、肩から落ちる最近の柔道では肩関節打撲の影響に体重が関与している可能性が考えられた。」

10月27日 京都大学整形外科 山脇佑介、中川泰彰